

此巡洋艦隊が其後の行動につきては深き注意を以て之に對せざるべからず浦羅斯艦に於ける巡洋艦の任務は多分日本の海上貿易を破壊せんとするにあるものならんとは一月十九日の本欄に於て既に論じたる所なり此等四隻の軍艦にして若し適當に操縦せらるるに於ては爲めに日本をして少なからざる不便を感ぜしむるに堪ゆ然れども其自ら敵に遮断するを以て防がんとするに遠く浦羅斯艦を去りて又之に據るの念を絶たざるべからず然らざれば日本に取りては唯だ敵艦を送り歸途に之を要するを以て足れりとするのみ

之が巡洋の戦術にして既に充分の思察を無遠距離の根據地に此等巡洋艦を迎ふる石炭船存するものなりとせば其活動たる能く之を待積するを得べし大洋は廣漠にして海面には何等の障礙存せざるを以てなり然れども露國が私船戦等の計畫に浦羅斯艦よりの其小突撃を連綿するに止まりて名古屋丸の沈没以外更に何等の大局的を消せざるものなりとせば日本は蓋し之に打撃を勵ゆるに困難を感ぜざる所なるべし

陸兵活動の豫期

現時我等はクルー及び鴨綠江岸の事に關して聊も確報を有せず讀者の見に従ひ如何やう

にも解釋するを得るが如き片々たる風説の類を僅にして有するに過ぎず日本軍艦隊は海上にあり之が攻撃は各方面に於て豫期せらるる強力なる南風にして十日以後尙は吹き積り居たりとせば之が運延は蓋し免るべし能はざりしなるべし朝鮮海灣の潤開したる錨地より上陸を試みんとするに當りて斯の如き風力は爲めに之を緩慢ならしめ又之を困難ならしむるものあるを疑はず英國陸軍の之を同一の動作が同一の原因に依りて数日の延引を見たるの例亦甚だ乏しからず

○タイムスの日露戦争批評 (八)

タイムスの軍事記者が二月十七日發行の紙上に於て論じたる所左の如し

旅順艦隊の實狀

露國主力艦隊の現狀に關して在旅順口の我が特別通信員が發したる詳報(別項參看)は日本艦隊の攻撃に依りて受けたる損害の層大なりしを思はしむるに足るものあり同通信員は七隻の艦名を擧げて之が其自由を失ひたるを云ふ内四隻は即ち戦艦なり尙は同通信員は

運計十一隻の軍艦の戦艦能力を失ひたるを得す此報と公報との間に明の相違あり然れども結局露國艦隊は容易く回復する能はざるが如き打撃を受けたるものたるを我等は蓋ししむるに過ぎざるのみ

尙は他の筋よりの報に據れば輕快なる彼の巡洋艦アスモルドは去る十三日に於て沈没したりと云び又沈没を防ぐが爲めに擱岸せしめられたりと云ふ此軍艦は即ちアレキサンダー提督の稱して三日間に其修繕を完成し得べしと爲したるものなり遼東半島の諸島に於て日本上陸兵の小部隊が散積したるに關しては甚しく重きを措くに足らず此等は必ず鐵道線路を破壊せんが爲めか又は牽制の目的を以てして上陸したる其小部隊兵に過ぎざるべし斯くて旅順口守備隊をして奔命に疲れしむれば日本兵の業即ち成る尙は推察し得る限りに據れば露國艦隊中敗殘の艦艇は未だ港外に留まれるもの如くヤリヤーク、オトフズニーの二砲艦及び其他の小艦艇亦た既に之に合したるべし九日の戦後二回露國軍艦は外洋に脱せるの狀あり水雷艦隊は即ち十日の夜を以て出航し殘存せる全艦隊(土曜日(十三日)に於て出航したりと云ふ兩回とも此等の諸艦は敵に接す

るふとなかりし是に於てかブラツク將軍稱して曰く「旅順口は全く静寂なり」と

旅順艦隊外の艦船

艦隊より分離したる小艦艇中砲艦マンチューンは我上海通信員に據るに同地附近の西北利亞埠頭にありて其本造部及び諸障礙物の撤去に従事し居れりと云ふマンチューは牛莊にあり多分水結し居れるものならん共に仁川の事例を襲ひて敵の捕獲品とならんよりは寧ろ幸願なる没落を見んふとを欲するものなるべし地中海の一隊は思ふに尙ほブナーの近傍に漂泊し居れるものならん此等は同所によりて更に其後の命令を待つべき旨訓令されたり露に威海衛に關する英國の行動に嫌疑を加へ遽然として之に憤慨したる露國の我同業者等は蓋しブナー方面に於ける其中立義務の解釋如何につき自國政府に質問する處あつて可なりとす

浦羅斯艦隊の行動

浦羅斯艦の巡洋艦等は津輕海峡沖に於て武装なき一汽船を破壊したる後南方に航進したるに似たり去る土曜日(十三日)柏崎沖に於て既められたりと云ふ以前アスモルドの艦長たり

し此艦隊の司令官ライツェンスタイン大佐は無線電信又は通報船に依りて浦羅斯艦隊と其通信を行ひ居れるものならん名古屋丸に對する其武器の行使につきても之が報を以て之を總督に聞するを得たり東郷提督に其不便を感ぜしめたる天候の不良は之に備みたる地域頗る廣かりしもの如くライツェンスタイン大佐報告して其行動し居れる方面にも亦三日間風波荒くして且つ雪を交へたるを云へり去る十日よりして黃海に初まりたる天候の變化は海上に於ける日本運送船に不便を與へたるを免れず遂に其上陸運動の一部は爲めに之を延期するの止むなきに至りたるべし

ライツェンスタイン大佐は今や敵の長く交戦し來らざるを怨むの要なからんとす二隻の戦艦及び四隻の甲裝巡洋艦より成る日本の分艦隊十三日午後東方に向け威海衛を通過したる浦羅斯艦隊の朝鮮海峡を通過する前矢づ之を遮断するを待ん

普通の狀況よりして察すればライツェンスタイン大佐の此海峡を通過せんことを敢てするものなるは之を信するも能はず然れども既に生じたる事態よりして之を見れば實際に之を敢てするものなるが如し東郷提督にして既に此新敵に會するが爲め二隻の戦艦艦隊及び

四隻の巡洋艦を分離したる以上は交戦の結果につきては既に疑ふを要せず日本提督は尙は旅順口艦隊に對するに四隻の戦艦及び砲艦なる巡洋艦等小艦艇の一隊を有す露國艦隊出港し來るものと會戦するに於て優に有利の地位に立てり是に於てか起るべき問題はライツェンスタイン大佐既に旅順口艦隊の受けたる損害につきて之を知曉し居れるものなり或は當初に計畫したる所より日本の成功に依りて此計畫の全く打格したるに關せ方既に通り之を行はんと欲するものなりや如何と云ふにあり浦羅斯艦の巡洋艦は果して何の日を以て出港したるや更に確知するに堪へたるものなく八日の英國新聞に見えたる東京電報は同日に於て此等巡洋艦の既に出港し居たるを云へり果して然りとせばライツェンスタイン大佐は其出港後に於ける事變を詳に知悉し居れるを必ずからざるなり大佐にして一たび朝鮮海峡を超え南方に航進せんことを欲するが忽ち其狹隘なる海面に於て日本水雷艦の把獲する所となるべし狹隘なる海面は實に水雷艦の其動作を行ふに於て特に便なりとする所なり若し幸にして無事此海峡を通過し得る事ありとするも尙は其前途には之を遮断せんとして東郷提督により分離されたる優勢なる艦隊の存するあり